

令和3年度第2回南房総市地域公共交通活性化協議会

(兼地域公共交通会議) 議事要旨

日 時：令和3年8月2日（月） 15：15～16：50

場 所：南房総市役所別館1 大会議室

参加者：委員24名（別添委員名簿及び席次表参照、7名オンライン参加、5名欠席）
：南房総市 総務部長・企画財政課長・同課長補佐・同地域振興係長及び係員

議 事：

1. **【協議第5号】南房総市地域公共交通計画について**

事務局より、南房総市地域公共交通計画（原案）について提案があった。

まず、前回会議の原案資料から修正点を報告。資料1-1は、南房総市地域公共交通計画（原案）について、前回会議からの修正を一覧にしたもの。主に字句修正として、集計値の微修正や事業スケジュール修正、用語説明の追加などを行っている。その中で、P8では、1つめの修正として鉄道に関する説明文の中で、新型車両の導入に伴うワンマン運転開始の内容を記載した。2つ目の修正としてバリアフリーの比較対象として、那古船形駅の画像を加えた。3つ目の修正として、鉄道駅の利用者数の推移の図表について無人駅を除いたものに差し替えた。次に、P25の財政状況について、令和元年度予算の状況から同年度の決算状況に内容を修正した。次に各施策の事業スケジュールについて、各施策ページに合せる修正をした。なお、これら3ページ分についての差し替え資料を資料1-2から1-5まで次第資料に添付している。

続いて、パブリックコメントの結果をご報告。前回会議で採択いただいた原案に上記説明の一部修正を加えた計画（原案）について、令和3年6月25日金曜日から7月26日月曜日までの32日間、市のホームページを中心にパブリックコメントを実施した（資料1-6）。南房総市や公共交通利用者などを対象とし、市役所本庁舎や地域センターの各窓口で閲覧できるようにした他、JR 館山駅、ジェイアールバス関東館山支店及び日東交通館山営業所の待合所でも閲覧できるよう対応いただいた。

意見提出の結果については、資料1-7として配布し、意見数は、1名の方から3項目の提出があった。意見内容については、いずれも鉄道に関することで、施策の明確化やワンマン運転への対応、バリアフリーや無人駅に関して要望する内容となっている。1番目の「基幹交通軸の一次交通に位置付けている鉄道に関して、具体的な施策が乏しい」との意見に対しては、「鉄道については、広域交通に欠かせない重要な交通手段と位置付けており、利用者減少が続く JR 内房線の利用促進や利用環境を整えていく必要があり、単独市で取り組むより沿線自治体等の連携により地域の課題として検討していきたいと考えます。そのため、館山市との合同の交通計画の施策として事業を記載し、各種事業展開を予定している」ほか、「ワンマン運転の安全性」については、「引き続き、安全性の確保に努めるよう要望活動等を行ってまいりたいと考えている」との対応を報告。次に2番目の「駅舎のバリアフリー」については、「千倉駅などの上下線ホームの相互利用」、「駅トイレの改善」、「千葉県 JR 線複線化等促進期成同盟」が意見としてあるが、「本計画案 75 ページに記載のとおり、改札からスムーズに移動できるよう鉄道事業者に継続的に要望していく」、「駅トイレは、令和2年度までに便器の洋式化が完了している」、「今後も安房地域の実情を踏まえた内容を要望していく努める」との対応を報告。次に3番目の「無人駅の有効活用」については、「鉄道利用促進のため、JR 内房線の沿線自治体との連携や、観光需要の取り込みなどを踏まえた各種事業に取り組む」との対応を報告。なお、これらの

意見は、参考意見として、今後の各種事業展開の際に、取り入れていく考え。

・質疑等なし

⇒承認済み

2. **【協議第6号】令和3年度協議会事業について**

事務局より令和3年度協議会事業として「丸線・平群線の実証運行について」の提案があった。

配布資料の2-1を基に説明。本日開催した南房総・館山地域公共交通活性化協議会にて審議いただいているが、南房総市域の事業でもあるため、事業開始を含めた事務局提案として同様に説明を行った。当該事業は、千葉県の補助事業「持続可能な地域公共交通の確保支援事業補助金」を活用して実証運行に取り組む予定。取り組む内容としては、今年度も丸線・平群線の実証運行に取り組む。この両路線については、令和2年度に実施した実証運行の結果を踏まえ、現在の運行ルートを活かしながら当該路線の維持・継続を目的とした新たな運行形態を検証する予定。丸線については、定期利用者を始めとする一定数の利用者がいることから、主に平群線の運行形態を変更し、検討したいと考えている。実証内容の提案として、

- ・運行ルートを平群車庫から三芳分庁舎経由、安房地域医療センター間に変更
- ・新たな運行システムとして、車両の小型化と事前電話予約制によるデマンド運行
- ・丸線との三芳分庁舎での乗り継ぎ、安房地域医療センターでの鴨川館山線との接続を可能な限り設定
- ・デマンド運行以外に朝夕の通勤・通学需要を確かめる従来の館山駅～平群車庫間を1往復設定
- ・デマンド運行時の均一料金に取り組む
- ・実証期間は、11月以降の50日間程度を予定
- ・運賃は、平群線は1回300円程度、丸線は、従来通りの対距離制運賃を想定
- ・交通結節点は、三芳分庁舎とし、丸線との接続を予定
- ・運行形態は、デマンド運行を基本とし、運行時刻を設定する。ただし、電話等による事前予約がない場合は運行しないこととなる

今後、関係者との協議や、意見交換会を行いながら事業設計を行う予定。

・質疑等なし

⇒承認済み

3. **【報告第2号】南房総・館山地域公共交通活性化協議会について**

事務局より、南房総・館山地域公共交通活性化協議会について現況報告。

令和3年度の2市合同協議会の事業として前記の丸線・平群線のほか、館山市の神戸地区の実証運行について報告。(配布資料3-3)

- ・事業目的として、神戸・富崎地区のうち、バス路線から外れた集落住民の移動手段を確保し、ストレスなくお出かけできる環境を整えるため、公共交通空白地に住んでいる高齢者の買い物需要に添えていくことを目的とする。
- ・実証内容は、
 - ①様々な需要はある中、まずは高齢者の買い物に焦点を当てた検証を予定
 - ②ハイエースワゴン車による曜日運行（運行する曜日を絞る形態）に取り組む
 - ③曜日別に地区を巡回し、おどや大神宮店又はイオンタウン館山まで運行
- ・実証期間は、1か月程度を想定しているが、今後の検討とする
- ・運賃は、地域内は200から300円、地域外は500円を想定

- ・交通結節点は、相の浜（洲の崎線・南房州本線と接続）
- ・運行形態：デマンド型運行又は区民館等に停車ポイントを設定した定時定路線型運行
今後、関係者との協議や、意見交換会を行いながら事業設計を行う予定。
- ・質疑等なし

4. その他

- ・委員からの情報提供等：

①日東交通からの質問

コロナ禍による利用者減少が続いている厳しい状況のなか、夏の繁忙期も緊急事態宣言が発令されたことにより回復が見込めない状況が続いている。そんななか、様々な施策を検討しているが、国の事業として令和2年度3次補正予算事業の「既存観光拠点再生・付加価値化推進事業（交通連携型）」について、観光庁のホームページを拝見し、企画提案型の事業採択・支援があるようだが、申請内容や方法、相談窓口などアドバイスを関東運輸局の板垣課長にお願いしたい。

⇒板垣委員

「既存観光拠点再生・付加価値化推進事業」については、3事業のうち現在は、交通連携型について9月まで募集中である。交通事業者と観光団体、観光協会などが連携していただき、発展的に観光施設等の賑わいを創出、新しい様式に順応した観光パッケージの創作などに紐づいて、そこに行く輸送手段として交通が連携する事業に対して、計画を確定させる。その計画が認定されれば、補助率に応じた支援が受けられる仕組み。例えば、観光イベントに開催に合わせた乗合バスの運行など、イベントのための貸切バスの運行など、各メニューに係る経費を決めていただいた上で支援が決まる。申し込み先は、国土交通省へ直接申し込むのではなく、当該事業の受付事務局に申し込むことになる。相談窓口は、当局の交通企画課が対応させていただきますので、ご活用をご検討いただければと思いますので、よろしくお願いたします。

以上。